

保育における「(社会) 資源」：概念分析

仲 真人

A Concept Analysis of “(Social) Resources” on Childcare

Masato Naka

1. 関心の所在

平成20年改訂の『保育所保育指針』(以下『指針』)には、「資源」という文字が次の3か所見られる(以下、「資源」の傍点は筆者付記)。

a) 「第1章 総則」の「2 保育所の役割(3)」

「保育所は、入所する子どもを保育するとともに、家庭や地域の様々な社会資源との連携を図りながら、入所する子どもの保護者に対する支援及び地域の子育て家庭に対する支援等を行う役割を担うものである」

b) 「第4章 保育の計画及び評価」の「1 保育の計画」の「(3) 指導計画の作成上、特に留意すべき事項」の「オ 家庭及び地域社会との連携」

「子どもの生活の連続性を踏まえ、家庭及び地域社会と連携して保育が展開されるよう配慮すること。その際、家庭や地域の機関及び団体の協力を得て、地域の自然、人材、行事、施設等の資源を積極的に活用し、豊かな生活体験を始め保育内容の充実が図られるよう配慮すること」

c) 「第6章 保護者に対する支援」の「1 保育所における保護者に対する支援の基本(7)」

「地域の子育て支援に関する資源を積極的に活用するとともに、子育て支援に関する地域の関係機関、団体等との連携及び協力を図ること」

これらの「社会資源」あるいは「資源」の文字は、平成11年改訂の『指針』の文中には1か所も記載されておらず、平成20年改訂で新たに登場したものである。平成20年改訂の『指針』に対応した厚生労働省編の『保育所保育指針解説書』(以下『解説書』)には、上記の3つの他に合計11か所の「社会資源」ないしは「資源」の記載が見られる。「序章」の「1. 改定の経緯(2) 改定の背景」では、「地域における子育て支援の活動が活発になる中で、保育所はもとより多様な支援の担い手など地域の保育・子育て支援の資源が蓄積されつつある」とあり、次いで「3. 改定の要点(3) 保護者支援」に「保育所の特性を生かした支援、子どもの成長の喜びの共有、保護者の養育力の向上に結びつく支援、

地域の資源の活用など、保護者に対する支援の基本となる事項を明確にしています」とある。上記の a) を解説したくんだりでは、「地域の様々な人や場や機関などと連携を図りながら、地域に開かれた保育所として、地域の子育て力の向上に貢献していくことが、保育所の役割」と補足説明されている。続く「3 保育の原理 (2) 地域交流」には、「保育所は、地域に開かれた社会資源として、地域の様々な人や場、機関などと連携していくことが求められています」とある。上記 b) を解説したくんだりでは、「積極的に活用」すべき「地域の資源」として、「異年齢の子どもをはじめとする幅広い世代の人々」と「社会の様々な文化や伝統」があげられている。上記 c) を解説したくんだりでは、保育所が「交流」している「資源」として、「様々な専門職、ボランティア、当事者などが担っている」「地域子育て支援活動」があげられており、さらに保育所が「連携を欠かすことができない」「社会資源や関係者」として、「児童相談所、福祉事務所、市町村相談窓口、市町村保育担当部局、市町村保健センター、児童委員・主任児童委員、療育センター、教育委員会等」があげられている。

このように、平成20年改訂の『指針』では、「(社会) 資源」の活用やそれとの連携が、保育内容の充実、保護者支援、地域の子育て支援に重要であると繰り返し述べられており、この概念が同『指針』のキー・コンセプトの1つになっていることがわかる。周知のように、児童福祉法第48条の3に基づいて、保育所には日常の保育に支障のない限りにおいて、それぞれの保育所の特徴や地域の状況に応じて地域子育て支援に取り組むことが求められており、保育に関連する「(社会) 資源」の活用やそれとの連携は、この課題を達成するための方策として、新たに『指針』に盛り込まれたと見ることもできる。ところが、『指針』および『解説書』で用いられている「(社会) 資源」の内容はやや漠然としており、記述から「(社会) 資源」の活用や、「(社会) 資源」との連携にとりくむ保育実践のモデルをイメージすることは難しい。そこで本稿では、看護研究において開発された概念分析の手法を用いて、保育における「(社会) 資源」の概念の明確化を試みることにする。

2. 概念分析について

概念分析とは、米国の看護研究において1980年代以降に開発され普及した研究方法で、医療・看護の現場で経験される様々な現象の概念化や、何気なく使用されている言葉の概念的定義の明確化を目的とするとともに、関連する概念間の前後関係や因果関係を定式化するものである。

概念分析には大別して3つの手法がある。1つは概念を用いての思考を教育的に提唱したWilson (1963) の概念分析法を基礎に、対象の本質の概念化をめざす本質主義 (essentialism) の手法であり、2つ目は、概念とは対象の可能性や行為の習慣を言語的に把握したものであるとする属性理論 (Dispositional Theories) を基礎に、概念が社会的な文脈の中でどのように使用されているかを文献検索・検討から導き出すRodgers (2000) による方法である。3つ目はこれら2つの方法を折衷し、実地調査なども取り入れて概念の検討を行うハイブリッド・アプローチと呼ばれる方法である。本稿においては、これらのうち2つ目のRodgersの方法を用いて保育における「社会資源」の概念分析を行う。

学術的な概念は一般にある現象についての普遍的な本質を抽出したものと見なされるが、Rodgersはそうした本質主義の概念観をしりぞけ、概念を様々な社会・文化的文脈の中で新たな意味を付与され、再構成される流動的な観念として捉えなおす概念分析法を開発した。Rodgersの概念分析のプロセスは次のようなものである。

- 1) 関心のある概念、およびその概念に関連性のある語句、表現を示す。
- 2) どの分野でデータ収集を行うかを示し、分野を選択する。
- 3) データを収集する（その際、次の a.および b.について把握する）。
 - a. その概念の特性。
 - b. その概念が使用される学際的、社会・文化的文脈と概念内容の時間的推移。
- 4) 収集されたデータを分析する。
- 5) 概念の典型的な例があれば示す
- 6) 概念からの示唆や仮説、今後の概念発展に向けての示唆を示す。

データ収集から分析までの作業は次の通りである。まず、選択された学問分野から対象となる概念（あるいは現象）、代替可能な語句、関連する概念を手掛かりに文献検索を行う。検索された文献数が多数の場合には無作為抽出によってサンプル文献が絞られる。Rodgersは概念分析に必要なサンプル数は最低30文献程度だとしている。次にサンプル文献を通読し、概念分析のデータを収集し、記録する。その際、後で分類整理しやすいようにコーディング・シートを使用することが推奨されている。コーディング・シートに記録されるデータの基本的な項目は次の5点である。

- ① 概念の特性（対象となる現象の定義）
- ② 先行要件（現象の発生に先立つ出来事）
- ③ 概念の帰結（現象が発生した結果として何がもたらされるか）
- ④ 参照（何を参考にすれば、その現象を明らかにできるか）
- ⑤ 関連した概念（対象となる現象と関連する他の概念や代替可能な概念）

これらの項目ごとにデータの分析と整理が行われた後で、概念分析の結果と知見がそれまでの作業の過程とともに報告される。この方法の特色は、サンプル文献の母集団となる文献が収集された特定期間の社会・文化的文脈において流通している対象概念の共通認識と諸特性を明らかにすることにある。したがって分析によって明確にされた概念の特性は流動的で暫定的なものであるが、社会の要請に応じて変化し続ける保育実践に関連する概念を分析するのに有効な方法といつてよい。

3. サンプル文献の収集

本研究でのサンプル文献の収集について述べる。Rodgersの概念分析法では、サンプル文献の収集に先立って対象となる分野が選択されるが、本研究では近年めざましく発展している文献データベースを利用し、キーワード検索による文献収集を行った。利用したデータベースは国立情報学研究所の論文情報データベースCiNiiである。検索で用いた中心的なキーワードは「資源」で、関連するキーワードは「保育」と「子育て」を採用した。検索の対象期間は2000年から2010年までに設定し、「CiNiiに本文あり、または連携サービスへのリンクあり」を選択し、〈資源&保育〉での検索と〈資源&子育て〉での検索を行い、この2回の検索結果からサンプル文献を抽出した。その結果抽出された文献は、〈資源&保育〉の検索では33点、〈資源&子育て〉の検索では31点であった。今回の概念分析では、これらの文献検索で得られた文献から、内容が重複している文献、保育についての言及のない文献、林業や動物学などの今回の研究と関連性のない文献を除いた37点をサンプル文献として選定した。分野別の文献の内

訳は、保健と助産を含む看護研究がもっとも多く16点、福祉研究が11点、保育研究5点（今回は保育を福祉から独立した1分野としてカウントした）、建築学が2点、教育学、心理学、宗教学が各1点であったが、福祉と看護の連携についての共同研究や福祉の視点からの建築の検討なども含まれており、これらの分野の区分は厳密ではない。以上のCiNiiを利用して抽出された文献に加えて、今回は厚生労働省のホームページで公開されている「改定保育所保育指針研修会テキスト」および「改定保育所保育指針Q & A50（改定保育所保育指針研修会資料）」をサンプル文献に追加した（表1）。

(表1)

	タイトル	著者		所収	分野
1	家庭との連携を重視した障害児保育について：旭川大学附属幼稚園でのAちゃんの事例を中心に	川崎史園 ほか	2000	北海道教育大学 情緒障害 教育研究紀要19, 207-214	保育
2	子育て支援と社会資源の活用	横堀昌子	2000	青山学院女子短期大学総合 文化研究所年報8, 55-71	福祉 社会学
3	三鷹市における乳幼児期の子育て支援ネットワークの資源 (特集21世紀の子育て支援ネットワーク)	山本真実	2000	発達24:2-21	福祉
4	保育における家庭との連携に関する考察（第2報）：地域の 社会資源としての子育て支援サービスとのかかわり	菅田栄子	2001	松山東雲短期大学研究論集 32:25-34	保育
5	保育資源と子どもの発達	石川隆 石川由美子	2001	日本保育学会大会研究論文 集(54), 754-755	保育
6	乳幼児の母親がもつ家庭外育児サポートに関する研究：私的 サポートの機能と育児不安・ストレスとの関係を中心に	森下剛	2001	東京教育大学教育方法談話会 教育方法学研究(14), 141-156	心理学 教育
7	家庭的保育を支援する社会資源：カナダの状況を中心に	上村康子 福川須美	2002	日本保育学会大会研究論文 集(55), 222-223	保育
8	子育て支援情報に関する研究：社会資源の情報経路を中心に	小栗正裕	2003	日本保育学会大会研究論文 集(56), 908-909	保育
9	『知的障害を持つ親への子育て支援研究の動向： TIM BOOTH & WENDY BOOTH の研究を中心に	岩田直子	2004	沖縄国際大学人間福祉研究	福祉
10	障害児をもつ母親の育児に関する人的資源の活用	高橋円	2004	甲南女子大学大学院論集. 人間科学研究編2, 63-69	福祉 社会学
11	保健・医療・福祉専門職の連携の実態と課題：子どもの問題 をかかえる2家族をととして分析	小林理ほか	2004	東海大学健康科学部紀要 10, 31-38	看護 福祉
12	家族のケア力を高める看護援助に関する研究	佐藤紀子	2004	千葉看護学会会誌 10(1), 1-9	看護 保健
13	育児支援ボランティアを組織し活動した看護学生の成長過程	小野美奈子 ほか	2004	宮崎県立看護大学研究紀要 4(1), 8-19	看護

	タイトル	著者		所収	分野
14	重症心身障害児と家族に対する情報提供のあり方	沼口知恵子 ほか	2005	茨城県立医療大学紀要 10, 27-36	看護 保健
15	岡山県における障害児の放課後生活実態に基づく放課後生活保障に関するニーズ調査	泉宗孝ほか	2005	川崎医療福祉学会誌 15 (1), 43-56	看護 保健
16	幼稚園に子どもを通園させている母親の育児不安と児童虐待傾向	花田裕子 ほか	2005	長崎大学医学部保健学科 紀要18 (1), 5-8	看護 保健
17	神戸市における保育所待機児童ゼロへの提案	中村義樹	2005	同志社政策科学研究 7 (1), 219-232	福祉 保育
18	自閉症の子どもを持つ親の支援のあり方に関する検討：自閉症親の会アンケート調査による	釘崎良子 服巻繁	2005	西南女学院大学紀要 9, 72-82	福祉
19	少子化のインパクト (4) 宮城県内陸北部における虐待相談及び育児資源の分析を中心に	君島昌志	2006	東北福祉大学研究紀要 30,27-38	福祉 社会学
20	育児支援の情報資源と地域「協働」(個人研究経過報告)	矢澤澄子	2006	東京女子大学女性学研究所 年報17, 16-17	福祉 社会学
21	子どもの健康にかかわる保健・看護・保育・教育・栄養管理職の感じる問題：首都圏の1地区における子どもの健康問題に関する学習・交流会から	平林優子 ほか	2007	聖路加看護学会誌 11 (1), 125-132	看護 保健
22	乳児をもつ家族への育児支援プログラムの開発－出産後1～3か月の母子を対象とした家族支援プログラムの評価	前原邦江 ほか	2007	千葉看護学会会誌 13 (2), 10-18	看護 保健
23	ルカ子母乳育児相談室の実績報告	土江田奈留美 ほか	2007	聖路加看護大学紀要 (33), 85-92	看護 助産
24	子どもの病気・けがへの保育士の対応に関する研究	木内妙子 ほか	2007	群馬パース大学紀要 4, 489-500	看護 保健
25	子育て支援施設「嘉川子ども館しゅっぱほ」の使われ方：既存資源を活用した子育て支援施設整備に関する研究その2	神崎暁子 ほか	2007	日本建築学会中国支部研究 報告集30, 653-656	建築学 福祉
26	地域の子育て資源に関する研究 (1) 子育てひろばの機能に関する一考察	斉藤進	2008	日本子ども家庭総合研究所 紀要45, 325-330	福祉 保育
27	今後の子育て支援に関する一考察：若者世代の活動を手がかりに	高橋千代 高橋円	2008	兵庫大学論集13,271-278	福祉 社会学
28	保育施設における園外活動の実態からみた地域資源の使われ方について：横浜市を対象としたアンケート調査より	松橋圭子 ほか	2008	日本建築学会大会学術講演梗概集E-1, 建築計画I,195-196	建築学 福祉
29	発達障害の早期発見・早期介入支援・社会資源の活用と制度を考える (日本特殊教育学会第45回大会シンポジウム報告)	津田芳見 ほか	2008	特殊教育学研究 45 (5), 320-321	教育 福祉
30	在日フィリピン女性の妊娠、出産および育児に伴うジレンマに関する研究枠組みの開発	鶴岡章子 宮崎美砂子	2008	千葉看護学会会誌 14 (2), 63-71	看護 助産

	タイトル	著者		所収	分野
31	妊娠期から出産後までの女性のエンパワメントを目指した実践的研究 -相談・家庭訪問・地域資源を利用したアウトリーチの試みを通して-	寺村ゆかの 伊藤 篤	2008	神戸大学大学院人間発達環境学 研究科研究紀要2(1), 115-123	看護 助産
32	民生委員・児童委員の子育て支援活動に関する実態調査: 母子保健活動との連携の視点から	三橋美和 ほか	2008	京都府立医科大学看護学科 紀要17, 101-110	看護 保健
33	地域の子育て支援と神社の資源: プレイセンター・ピカソの事例 (現代 日本における地域活動と宗教文化の活用) - 神道と福祉の接点	藤本頼生	2009	宗教研究82(4), 981-982	宗教
34	地域における子育てに関する研究 - A地区の資源と子育て中 の母親の思いに焦点をあてて	田村康子 ほか	2009	近大姫路大学看護学部紀要 (2), 49-57	看護 保健
35	保育・介護労働の現状と課題 その4: 保育所における地域子 育て支援の実態調査を通じて	佐藤純子	2010	淑徳短期大学研究紀要 49, 99-110	保育
36	出産・育児期にある助産師の就業継続に関する実態調査	北川良子	2010	母性衛生51(2), 416-424	看護 助産
37	保育園児の家族が子どもの健康に関して利用する社会資源と 要望 - 首都圏1地区の調査より	平林優子 ほか	2010	聖路加看護大学紀要 (36), 17-24	看護 保健
38	改定保育所保育指針研修会テキスト	厚生労働省雇用均等・ 児童家庭局保育課	2008	http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/ hoikuhtml [2/10/2011]	
39	改定保育所保育指針Q & A50 (改定保育所保育指針研修会資料)	同上	同上	同上	

4. 概念分析の結果

次に今回行った概念分析の結果を報告する。

(1) 保育における「(社会) 資源」概念の特性

今回の概念分析では、保育における「(社会) 資源」とは何を対象として使用されているか概念かに注目してサンプル文献を検討し、次の6つのカテゴリーを特性として抽出した。

- a) 保育・子育て支援に関連する事業・サービス提供の主体となる専門施設・機関
- b) 保育・子育て支援に関連する専門機関によって提供・推進される事業やサービス
- c) 保育・子育て支援に関連する専門知識や技術を有する専門職
- d) 地域の住民組織や市民活動、ネットワーク
- e) 保育にかかわる人間の関係性や意識
- f) その他

各カテゴリーの内容と文献は次の通りである (表2)。

(表2)

	内 容	文 献
a)	保育所, 幼稚園, 保健所, 児童相談所, 病院, 福祉事務所, 地区センター, 他	1, 3, 4, 18, 19, 23, 28, 34, 35, 37, 38
b)	子育てひろば事業, 地域子育て支援センター事業, 健康教室, 育児相談, 福祉サービス, 幼児保健プログラム, 他	2, 4, 8, 9, 10, 11, 12, 14, 15, 18, 21, 22, 23, 24, 26, 29, 30, 31, 34
c)	保育所, 幼稚園, 保健所, 児童相談所, 病院, 福祉事務所, 地区センター, 他	1, 3, 4, 18, 19, 23, 28, 34, 35, 37, 38
d)	自治会, 婦人会, 子育てサークル, 子育て支援SNS, NPO, ボランティア, 地域住民, 親族ネットワーク, 他	2, 8, 10, 13, 15, 16, 20, 27, 30, 31, 33, 34, 37
e)	友人知人との関係, 家族の支え, 夫との関係, 保育士の子ども観・子育て観, 育児に対する自信・気づき	10, 16, 24, 30
f)	絵本, 図画工作, 老人施設の空きスペース, 学校の空き教室, 公園, 道, 商店街, 利用可能な古民家, 鎮守の森, 育児情報	5, 17, 25, 28, 33, 34, 38

結果を見ても、保育における「(社会)資源」概念がじつに多様な対象を指示して使用されていることが分かる。平成20年改定の『指針』では「地域の自然、人材、行事、施設等の資源」「地域の子育て支援に関する資源」と漠然とした表現で「資源」が規定されているが、サンプル文献から抽出された「資源」もまた、『指針』の記述をなぞるような内容であった。ただし、今回のサンプル文献の中の2点(文献2と20)が、子育て資源としてのICT(パソコンやインターネット)、SNS(インターネットを介したソーシャルネットワーク)を取り上げていたことは注目される。これらの情報ツールは限定された「地域」を超えた情報の交流とネットワークの構築をもたらすものであり、実際にICTを活用した子育て支援の取り組みや市民活動は全国的に広がっている。これは『指針』の規定よりも先行する「資源」と言えるだろう。

(2) 保育における「(社会)資源」概念の先行要件

先行要件については、保育における「(社会)資源」の利用や活用を要請する状況・事情に注目してサンプル文献を検討し、次の3つのカテゴリーを抽出した。

- a) 保育ニーズの多様化へ
- b) 母親の育児不安・困難、孤独の増大の
- c) その他

各カテゴリーの内容と文献は次の通りである(表3)。

(表3)

	内 容	文 献
a)	延長保育, 一時保育, 障害児保育, 障害者の子育て支援, 地域の活性化, 保育所での保健活動, 在日外国人女性の子育て, 他	1, 2, 3, 4, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 18, 23, 24, 29, 30, 35
b)	仕事と子育ての両立困難, 保育所待機児童問題, 地域・家庭の育児機能の低下, 他	13, 17, 19, 20, 21, 23, 31, 34, 35, 36
c)	都市部での保育スペース確保困難, 子育て支援活動の拠点確保の困難	28, 33

この結果から読み取れるのは、保育における「(社会) 資源」は、保育ニーズの多様化への対応や育児不安・困難の軽減といった「子育て支援」の文脈で使用されることの多い概念だということである。『指針』の3か所の「(社会) 資源」も、その中の2か所は「保護者に対する支援」と「地域の子育て支援」に関連する記述において述べられている。また、保育研究以外の文献においても、「(社会) 資源」は同じような文脈で登場している。これは保育における「(社会) 資源」に関連する『指針』の規定が、「家庭における子育てを支えるため、あらゆる社会の構成メンバーが協力していくシステムを構築する」という1994年のエンゼルプラン以来の、国策としての少子化対策の一環として登場したことをうかがわせる。

(3) 保育における「(社会) 資源」概念の帰結

保育における「(社会) 資源」概念の帰結については、保育における「(社会) 資源」の利用や活用の効果・成果に注目してサンプル文献を検討し、次の3つのカテゴリーを抽出した。

- a) 専門機関の保育・地域子育て支援の充実
- b) 地域子育て活動・母親のエンパワーメント
- c) その他

各カテゴリーの内容と文献は次の通りである(表4)。

(表4)

	内 容	文 献
a)	保育所保育の充実, 専門機関どうしの連携の促進, サービス利用の増大, 他	1, 4, 10, 11, 17, 21, 23, 25, 28, 30, 34, 35
b)	育児サークルの結成, 母親の交流の広がり, 子育て支援ネットワークの創出, 子育て支援活動の活性化, 他	10, 12, 20, 23, 26, 31, 33
c)	ボランティア参加による専門職をめざす学生のエンパワーメント, 保育所の園外活動の広がり, 他	13, 27, 28

ここでは、保育にかかわる様々な「(社会) 資源」との連携、活用によってもたらされた保護者支援、「地域子育て」支援が、地域の子育て活動や母親のエンパワーメントをもたらすのにとどまらず、ボランティアとしてのかかわりを通じて、子育てを未経験な若い世代や専門職をめざす学生のエンパワーメントにもつながるといった報告があったことに注目したい(文献13, 28)。

(4) 保育における「(社会) 資源」概念の参照

何を参考にすれば、保育における「(社会) 資源」概念を明らかにできるかについては、今回検討したサンプル文献の主題が多様であったことから、複数のまとまったカテゴリーを抽出することはできなかった。しかし、専門機関相互の連携、専門職間の連携、専門機関または専門職と家庭の連携といった、保育に関連する主体どうしの連携について検討した文献がもっとも多く抽出されたことから、これを代表的なカテゴリーとして提示したい(表5)。

(表5)

内容 (文献)
障害児保育での家庭をパイプとした幼稚園と専門機関の連携 (1), 地域子育て支援事業相互の連携 (3), 障害児子育て支援にかかわる専門職の連携システム (11), 母子保健における看護大学と地域の連携 (23), 保育所保育における医療専門職との連携 (24), 保育者養成大学と保育所の連携による保育プログラム実践 (29), 他

(5) 保育における「(社会) 資源」概念の関連概念・代替語

今回検討を行ったサンプル文献からは、保育における「(社会) 資源」概念の代替語を抽出することはできなかった。関連概念については「子育て支援」を11文献から、「連携」を6文献から、「ネットワーク」を4文献から抽出した。

(6) 保育における「(社会) 資源」概念の典型例

今回の概念分析では保育における「(社会) 資源」概念の典型例を抽出することはできなかった。そこで、さしあたりここまでの概念分析の結果をふまえて、保育における「(社会) 資源」概念の定義を次のようにまとめてみたい。

保育における社会資源とは、保護者支援、地域子育て支援に資すると予想される社会の様々な専門機関、施設、活動、人材、場所および事物のことである。保育所および保育者には、これらとの連携およびその活用に積極的に取り組み、子育てに取り組む保護者と地域子育ての支援に貢献することが期待されている。

5. 考察：実践にむけて

今回Rodgersの概念分析法に従って保育における「(社会) 資源」の概念分析を行ったが、保育所保育の実践において、保育者が「(社会) 資源」とどのように連携すべきか、「(社会) 資源」をどのように活用すべきかについて、具体的なイメージを得るまでには至らなかった。その理由として、地域社会の施設や活動などを「資源」と捉えて保育を展開するという発想自体が、これまで施設での保育中心に実践を積み重ねてきた保育関係者にとって目新しく、こうした発想に立った研究や実践報告が十分に蓄積されていないことがあげられる。今回のサンプル文献で抽出された保育研究はわずか5点だった。そこで最後に、今回の概念分析で検討した文献から一般的な保育所の実践に参考となる事例を選び、考察を加えつつ紹介したい。

佐藤 (2010=文献35) は短期大学の保育士養成課程を卒業した保育士を対象にアンケート調査を行い、保育所における地域子育て支援の実態を検討している。佐藤の調査では、全体の46.4%の保育所で地域の子育てサークルへの支援を行っているとの回答を得たものの、地域の「子育て支援」等への保育士派遣では75%の保育所が「していない」と回答していた。その理由として回答者の5割以上が「考えたこともない」と回答し、次いで23.1%が「人出が足りない」と回答していた。「地域子育て」支援という保育のあり方が周知普及するに至っていない状況に加えて、慢性的な人手不足という現在の保育所の状況を反映した調査結果といえる。こうした保育所の実情をふまえて、佐藤は保育現場へのボランティア導入を提唱している。保育にかかわるボランティアについては、小野ほか (2004=文献13) と高橋・高橋 (2008=文献27) が学生ボランティアの取り組みの実践事例を報告しているが、家族の縮小で

保育や看護の専門職をめざす学生にも幼児と接した経験をもたないものが増えている今日、ボランティアとしての幼児へのかかわりが、貴重な経験の蓄積、啓発の機会になっていることを報告している。佐藤は保育所保育へのボランティア導入には制約や課題も残されていることを指摘しているが、教育職や保育職、看護職をめざす学生ボランティアや子育て経験をもつ地域住民によるボランティアは、保育所が連携し活用すべき「資源」としてイメージしやすいものである。

保育における地域「資源」の活用では、建築学の分野から抽出された松橋ほか（2008＝文献28）も、学会報告の要約ながら示唆に富んでいる。松橋らは園庭などの屋外遊び場の確保が困難な都市部（横浜市）の保育施設を対象に、周辺の「地域資源」の活用状況について調査した結果を報告しているが、横浜市が独自に認定した認可外施設である「横浜保育室」（対象は43施設）では、83.7%が園庭の代わりに施設周辺の「公園」などを「ほぼ毎日」利用していたという。認可保育所も含めた対象施設全体（211施設）の約6割が「普段」3～4か所の場所で園外活動を行っており、活動頻度の高い施設ほど利用箇所数の多さが確認され、「保育のねらいに対応させながら、地域の中で様々な活動場所を選択している様子も窺えた」という。対象施設へのヒアリング調査では「公園」の他に、「散歩」で地域の「道」を歩くことにも保育のねらいがこめられており、地域の「公園」や「商店街」「地区センター」「高齢者施設」を活用することで、子育て家庭や地域住民との「交流の実践が確認できた」と報告している。松橋らが報告した状況は、自前の保育資源に乏しい都市部の保育施設ゆえの実情とはいえ、「地域資源」の活用から積極的な効果を汲み取ろうとする実践の取り組みといえよう。

6. 結び

本稿ではRodgers（2000）による概念分析法を用いて、保育における「（社会）資源」の分析と検討を試みた。今回の分析では保育分野からのサンプル文献が数点しか抽出されなかったこともあり、概念分析の目的を十分に達成したとはいえない内容となった。とはいえ、高齢者の老いを社会全体で支える「介護の社会化」と同じく、子育てを社会全体で支援する「保育の社会化」もわが国社会の課題であり、保育所および保育者が多様な保育の「（社会）資源」を活用し、連携を結び、子育て支援のシステム構築に取り組むことの重要性はもはや論を待たない。保育に関連する福祉や地域保健等の専門領域と共通の議論の足場を築くためにも、今回試みたような概念分析は必要な手続きと考える。当面の課題としては、保育における「（社会）資源」に関連する概念として抽出された「子育て支援」「連携」「ネットワーク」の各概念についても概念分析に取り組み、保育のはたすべき役割や課題を明らかにしたい。

【文献】

- ・厚生労働省編『保育所保育指針解説書』フレーベル館（2008）
- ・Rodgers L., Beth. Concept analysis : an evolutionary view. B. L. Rodgers, K. A. Knafel (eds.).
Concept Development in Nursing : Foundations, Techniques, and Applications (2nd ed.).
Philadelphia : Sanders Company. (2000). 77 - 102.
- ・Wilson, John. Thinking with concepts. Cambridge : Cambridge University Press. (1963).